歴史から紐解く小川の街並み

Ye Chenfei　森田琴

近年、小川では歴史ある建物の保存と活用に向けて様々な取り組みが行われている
小川というまちはどのように形作られてきたのか、建築と街並みに着目してその変遷とこれからを描く

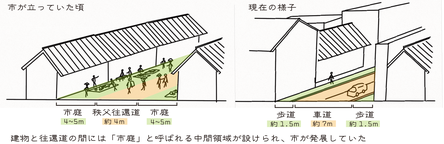
道を中心に発展してきた小川の街並み

市をたてるために人が集められ作られた小川のまち
車運が整備される前は、日常においても祭りなどのイベント時にも通りには自由に人が溢れていた

かつて存在していたオープンスペース「市庭」

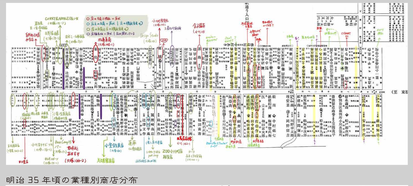
歩く空間と市場の空間が共存

歩車分離が進み人の滞留空間が消失

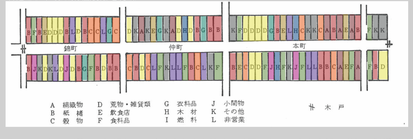


建物と往還道の間には「市庭」と呼ばれる中間領域が設けられ、市が発展していた

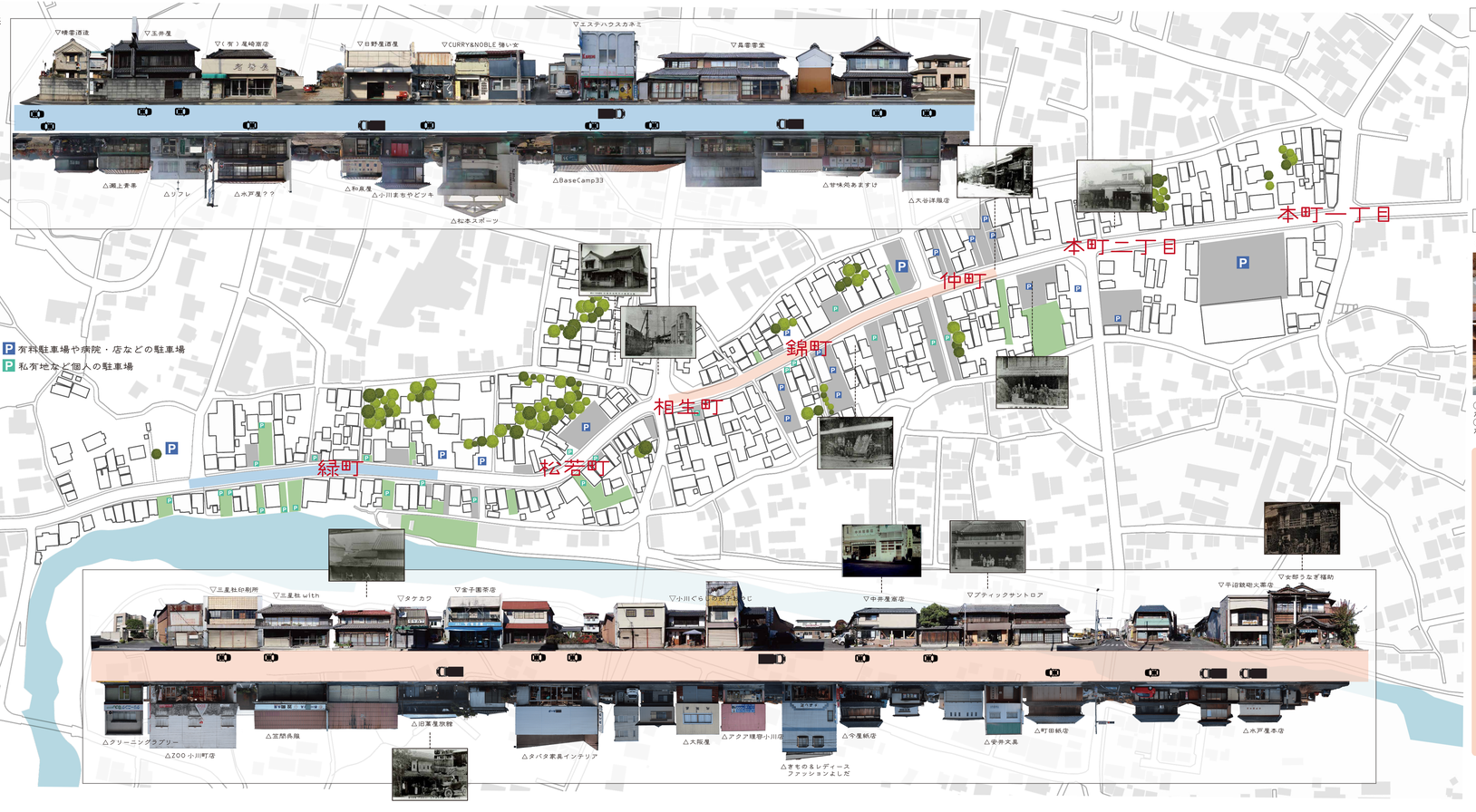
コラム / 商店の移り変わり



明治35年頃の業種別商店分布

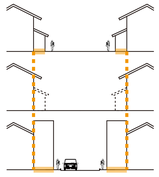


市によるまちの賑わ→裕福な人が多く今も店を続ける必要がない→空き店舗の増加に影響？



かつての建築の名残

一見コンクリートの比較的新しい建物のようだが、
その裏にはかつての建築構造が残る



通りに面する部分が増築され、歩道が圧迫
場所によっては人がすれ違うのが難しい
ほど狭い歩道も…

古い建築や景観を活用した様々な試み

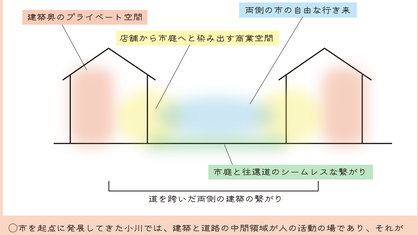
○昔の建築構造を活かしたリノベーション
○建築前の空間と合わせた人々の居場所

○今も残される川への眺望
○空き家オーナーへのヒアリング

○小川名産の建具がみられる店内
○建築活用の動きの第一

○リノベーションとともに地域の人に開かれた場づくり

考察：小川が作り出した道と建築の関係



○市を起点に発展してきた小川では、建築と道路の中間領域が人の活動の場であり、それが小川の街並みを作り出してきた

○交通・産業・人口など様々なまちの条件が変わってきた中で街並みも大きく変化し、小川における道と建築そして人の関係性が変わってきているのではないか

参考資料：市写真（小川町教育委員会提供、女部うなぎ福助店内撮影）
完全版 SS3 小川町調査報告書（東京都立教育研究所）
営業便覧と町並み復元図　小川町合併五〇周年小川町のあゆみ
絵図で見る小川町